

2019年度  
(平成31年度)

国内放送番組編集の基本計画

放送総局

# 編集の基本方針

---

東京オリンピック・パラリンピックの開催が、いよいよ1年後に迫りました。

NHKは、2020年に最高水準の放送・サービスの実現をめざすことを経営計画のビジョンとして掲げ、取り組みを進めました。

2018年には、BS4KとBS8Kの本放送を開始しました。超高精細の映像と迫力ある音響は、これまでにない臨場感と深い感動をテレビの前に届けます。

日々の暮らしに必要な情報を、より深く、より身近に、知ることができるように、インターネットを活用したサービスの充実にも努めてきました。

放送と通信の融合時代においても、視聴者のみなさまの信頼をいただけるように、挑戦と改革を進めます。放送法で定められた公共放送の基本姿勢を堅持し、自主自律と不偏不党を貫いて、正確な情報を公平・公正に伝え、多彩で質の高い番組を追求していきます。

全国各地で頻発する未曾有の豪雨や猛暑、いつどこで起きるともしれない大地震、暮らしを直撃する国際社会の変容など、私たちを取り巻く状況は、日々めまぐるしく変化しています。一方、少子高齢化など中長期にわたる社会の変質は、解決が困難なさまざまな重い課題をもたらしています。

地球環境や気候変動にも配慮した、働きがいがあり、経済成長も遂げられる持続可能な世界をどう創るのか。そして、多様な人々が心豊かに暮らすための身近な社会をどう実現するのか。ひとつひとつの課題について、視聴者のみなさまとともに、じっくりと考えていきます。

NHKが追求する6つの公共的価値（「正確、公平・公正な情報で貢献」「安全で安心な暮らしに貢献」「質の高い文化の創造」「地域社会への貢献」「日本と国際社会の理解促進」「教育と福祉への貢献」）を、多くの人にしっかりと届けるために、放送を太い幹としつつ、インターネットによるサービスも活用して、新たな時代の“公共メディア”をめざします。

# 編集の重点事項

---

## 1. 命と暮らしを守る報道に全力を挙げ、安全で安心な暮らしに貢献

全国各地でいつ起きるともしれない大地震、そして超大型台風や記録的短時間大雨、40度を超える猛暑などの異常気象。私たちの暮らしが自然の脅威にさらされる機会が頻発しています。

大規模災害が発生した際には、全国の放送局と本部が連携して被災地に必要な情報を発信する体制を確保し、状況に応じてテレビとラジオ、インターネットの伝送路を使い分けながら的確な情報を発信し、「命と暮らしを守る報道」に全力で取り組みます。

東日本大震災をはじめとする全国の被災地の復興を支援し、原発事故後の対策などについても継続して伝えます。

## 2. 世界の動向や暮らしに直結する課題を、

早く、深く、わかりやすく

国際社会における政治・経済の動向や地球規模の環境変化、社会の分断傾向、そして、日本での少子高齢化に伴う急速な人口減少など、持続可能な社会をめざすうえで、解決の糸口がつかみにくい課題が山積しています。

不確かな情報も氾濫する中、私たちは、国内外のさまざまな課題や最新事情について、正確で公平・公正な情報を、早く、深く、わかりやすく伝え、国民の知る権利を充足し、判断のよりどころとなる「情報の社会的基盤」の役割を果たします。意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにし、広く議論の場も設けながら、健全な民主主義の発達に寄与します。

インターネットを活用した情報収集や、データジャーナリズムなどの調査報道の手法なども取り入れながら、時代の節目を迎える日本と世界の“今”を、多角的に伝えます。

### 3. 幅広い世代の期待と多彩な関心に応える番組・コンテンツを 開発・充実

視聴者のみなさまに支持していただいている既存の番組やインターネットなどを通じて提供するコンテンツを一層充実させるとともに、NHKならではの信頼できる情報と演出による高いクオリティの新しい番組・コンテンツを開発し、幅広い世代の多彩な関心に応えます。

時間帯や番組ごとに、特にご覧いただきたい世代や視聴者層を想定し、それぞれの番組・コンテンツが提供する「公共的価値」と果たすべき役割を十分に意識し、視聴者のみなさまに“しっかりと届ける”編成を行います。

話題になった番組を視聴したいという方々の要望も踏まえて、番組のマルチコースや再放送、インターネットサービスによる提供を行います。

### 4. 東京オリンピック・パラリンピックの機会を生かし、 その先の時代に貢献するための挑戦を

翌年度に迫った東京オリンピック・パラリンピックは、スポーツを通して多くの人たちと感動を共有し、文化・芸術・科学技術をはじめとする日本の魅力を世界に知ってもらい、またとない機会です。

競技や選手の魅力を積極的に伝えて大会を盛り上げるとともに、国際交流など、世界の多様な文化や価値観に触れる機会を提供します。2020年3月にスタートする聖火リレーを通じて、日本各地の“今”にしっかりと向き合います。

「日本と世界」「人と人」「いまと未来」を結ぶ、さまざまな視点から、2020年から先の時代にもつながるテーマを取り上げ、視聴者のみなさまと考えます。

また、多くの方が高い関心を持ってご覧になる、オリンピック・パラリンピックは、放送・サービスのイノベーションに挑戦する好機でもあります。AI技術を活用した実況や字幕の自動化など最新技術を活用して、新たな時代にふさわしい「公共的価値」を提供していきます。

## 5. BS 4K・8K 世界最高水準の視聴体験と新たな可能性を追求

放送2年目を迎えるBS 4KとBS 8Kは、さらに新たな可能性を追求します。

4Kは、機材が進化したことにより、撮影・制作の機動力が格段に増しました。また、放送も通年化することから、2Kとの一体制作をより加速させ、多彩なジャンルの番組を編成します。

8Kは、世界最高品質の映像と音響を生かした番組を届けるとともに、まだ実績の少ない生中継で、地域の季節感あふれる祭りや風物詩などを伝えることにもチャレンジします。

放送を充実させるとともに、4K・8Kならではの、その場にいるかのような臨場感をより多くの人に体感してもらうために、パブリックビューイングなどを実施し、さらなる認知度の向上に努めます。

## 6. 多様な価値を認め支えあう社会をめざした放送・サービスを充実

誰もが人格と個性を尊重し支えあい、多様なあり方を相互に認め合うことで、全員参加型の活力あふれる社会をめざす、いわゆる「共生社会」の実現に貢献するために、放送・サービスを充実させます。

教育・福祉をはじめ、さまざまな分野の番組・コンテンツで、多様性が新しい価値を生むという理念を大切に、障害者が積極的に社会に参加する機会や、女性の活躍や国際交流などが社会にもたらす活力などについて、積極的に取り組みます。課題については、視聴者のみなさまとともにじっくりと考えます。

また、字幕放送・解説放送・手話放送を計画に基づき充実させるとともに、インターネットも活用して、さらに幅広い人たちが見やすく、聞きやすく、安心して視聴できるユニバーサル放送・サービスの開発と実現に取り組みます。

## 7. 全国の放送局と本部がしっかりと連携して、地域社会に貢献

多様な地域社会に貢献するために、全国の放送局は、地域で暮らす人の視点から、役立つ情報、関心の高いテーマ、固有の課題などを積極的に取り上げ、地域放送を通じて地域社会に貢献します。

全国放送では、地域で制作した番組も活用しながら、豊かな自然・文化・人々の営みなど、地域の魅力を広く発信します。

大規模災害時や、各地に共通する課題については、全国の放送局と本部を結ぶNHKならではのネットワークをフルに活用して、迅速かつ的確に情報発信と解決に向けた対応を行います。

## 8. 日本と世界の相互理解を促進する発信を、国内に向けても強化

国際社会との相互理解を進めるため、世界の情勢や生活の実情などを正確な情報で日本国内に伝えます。また、世界各地の大自然や魅力的な文化、最先端の技術や取り組みなどを伝える番組・コンテンツを制作します。

また、日本にいる外国人が災害情報や地域の情報を得られるように、国際放送と連携した編成や外国語によるニュースの発信、デジタルサービスによる提供などを行い、国内向けの放送・サービスでも日本への理解促進にも貢献します。

国際共同制作や国際展開など、NHKの番組・コンテンツと世界のさまざまな接点を通じて、日本の魅力を広く世界に伝えます。

以上の重点項目の実施にあたっては、以下のような施策も勘案しながら、取材・制作体制を構築します。

- これまでの質的、量的評価の手法に加えて、個々の放送・サービスの「役割」や「到達度」などの視点を取り入れた、公共放送ならではの評価指標を開発し、より適切な評価・管理体制を構築することで、視聴者の期待に応えます。
- 放送倫理やコンプライアンス意識を徹底し、これまで培ってきた取材力・制作力を生かし、事実に基づく確かな情報と質の高い番組の提供に努めます。
- NHKの業務に携わるすべての人の健康確保に留意し、「働き方改革」、女性の活躍などのダイバーシティー施策の推進、職場環境の整備に取り組みます。適切なアウトソーシング、AIの導入、テレワークの拡大など、業務フローの抜本的な見直しを実施します。
- 放送の実施にあたっては、番組のマルチコースや、4K・8Kと2Kの一体制作を進めるなど、限られた経営資源を効果的・効率的に活用します。

# 各波の編集方針

---

## 総合テレビジョン

基幹波として、安全と安心を守る報道に全力をあげて取り組み、何人からも干渉されない放送の自主自律と不偏不党を貫きます。また、公共メディアへの進化に向け、公平・公正で社会の指針となるニュースや番組、娯楽・文化・スポーツなどの多彩な番組を充実させるとともに、“公共メディア・キャンペーン”などの創造的な取り組みを本格的にスタートさせます。東京オリンピック・パラリンピックへの関心に応えながら、ポスト2020を意識し、これまでにないデジタルとの連携など新たな放送サービスの開発に積極的に取り組みます。また、地域の発信力を高め、地域サービスの向上を図ります。

### (編集のポイント)

1. 幅広い世代、特に現役世代、ネット世代の接触を増やすため、ターゲットを明確にした多様なラインナップの番組をバランスよく提供
2. NHKに対する接触が低い層へのアプローチを図るため、インターネットやデジタル技術を活用した番組の開発・強化
3. さまざまな手法で社会的な課題の解決に取り組むキャンペーン展開など、公共メディアへの進化を目指す新たな試みに着手
4. “東京2020”への機運を高める番組の積極的な発信と、共生社会への理解を深める番組の展開
5. 地域放送の充実と地域情報の全国発信を推進し、地域サービスを向上

### 〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

### 〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組20%以上、教育番組10%以上、報道番組35%以上、娯楽番組20%以上を編成します。



## 教育テレビジョン（Eテレ）

教育、福祉などの重要課題に加え、語学・教養・趣味実用など多彩な番組を編成し、教育放送として、幅広い世代の「知りたい」「学びたい」に応えます。番組とインターネットサービスとの連携を充実させ、子ども・若者の視聴拡大を図るとともに、人々の暮らしに寄り添い、豊かにする放送を目指します。

### （編集のポイント）

1. 教育、福祉、防災などの課題への総合的取り組み
2. インターネット・データ放送・アプリ等を活用し“参加・体験するテレビ”を提供、見るだけのテレビではなく、双方向で楽しむ機能を充実
3. インターネットサービスと効果的な連携をはかり、趣味実用・健康・子育て番組等で、視聴者の関心や疑問に応える情報を提供
4. 知的好奇心を刺激し、人生を豊かにする教養番組を開発
5. “東京2020”とその先の未来を見据え、多様性を認め合い、“ともに生きる”社会の実現に貢献

### 〔放送時間〕

○1日20時間を基本とします。

### 〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組15%以上、教育番組75%以上、報道番組若干を編成します。

## BS1

“ライブ感あふれる情報チャンネル”として、「スポーツ」「国際」「地域」「ドキュメンタリー」の各分野を進化させるとともに、東京オリンピック・パラリンピック関連番組では競技の面白さや奥深さをわかりやすく伝えることでイベントの盛り上げに寄与します。

スポーツにおける新演出・新技術の開発、スポーツを通じた共生社会の確立など、2020年とその先の時代に向けた社会の変革に先導的な役割を果たします。

(編集のポイント)

1. “東京2020”に向けて高まるスポーツ熱や関心に応え、幅広いオリンピック・パラリンピック関連番組を編成
2. スポーツ中継、番組のための新演出・新技術の開発を促進
3. 世界や日本の今を伝えるドキュメンタリー番組の強化
4. 地域の魅力や課題を取り上げる番組の充実
5. 視聴者の意見やアイデアをもとに、テーマを掘り下げて企画する番組の充実

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組20%以上、教育番組10%以上を編成します。

## BSプレミアム

“スーパーモアチャンネル”として、ほかのチャンネルにはない個性と見応えがある番組を多彩に提供し、視聴者の期待に応えます。時間帯ごとにターゲットを明確にして番組の強化を図るほか、日本の文化、地域の魅力を発信する番組を充実させます。

(編集のポイント)

1. 週末の魅力ある超大型特集番組の充実
2. 時間帯ごとに狙いを明確にした、他波にはないコンテンツの強化
3. スーパーハイビジョン一体制作の推進
4. 地域の魅力を発信する番組の充実
5. インターネットを活用した番組の開発

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めない。

## BS4K

4Kの機動力と高画質の魅力を生かした番組を提供し、超高精細映像の入り口として、先導的な役割を果たします。2Kとの一体制作を基本としながらも、見やすいジャンル編成や、先行放送、4Kオリジナル番組で独自性を打ち出します。

(編集のポイント)

1. 週末には、4Kの機動力を生かした独自の大型コンテンツを充実
2. 平日は、「エンターテインメント」、「サイエンス」、「ドラマ」、「カルチャー」、「ライフ」の5つの分野に分けて、曜日ごとにジャンル編成
3. 2Kよりも前に4Kで先行放送する番組も編成し、視聴者サービスを拡充

〔放送時間〕

○1日18時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めません。

## BS8K

8Kならではの圧倒的な映像・音響にこだわり、既存のテレビと一線を画した“未知の映像体験”を提供します。テレビ放送の新しい世界を切り開き、世界が認めるスーパーコンテンツを発信する“NHKのフラッグシップ”チャンネルを目指します。

(編集のポイント)

1. まるで本物と向き合っているような“没入感”に満ちた番組の充実
2. スタジアムやコンサートホールの特等席にいるかのような“臨場感”にあふれた大型中継や番組を編成
3. 新たな演出や見せ方に工夫を凝らし、2Kとの一体制作が可能な番組を開発

〔放送時間〕

○1日12時間10分を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めない。

## ラジオ第1放送

安全・安心を担う“音声基幹波”として、ニュース番組を拡充し、日々の暮らしに役立つ情報を深く、わかりやすく伝えるとともに、いざという時には、命を守る情報をきめ細かく届けます。幅広い世代の期待に応えるため、番組・時間帯ごとのターゲットを明確にし、多彩なジャンルの番組を展開します。地域情報番組を充実させるとともに、地域の魅力を全国へ発信します。デジタル展開を推進し、インターネットラジオ「らじる★らじる」のさらなるサービス向上を図ります。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養・教育番組あわせて25%以上、報道番組35%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

## ラジオ第2放送

生涯学習波として、多様な知的欲求に応える番組を編成します。また、語学番組の充実を図るとともに、多言語ニュースゾーンを整備し、“東京2020”に向けて加速する国際化に対応します。インターネットサービスとの連携も充実し、“いつでも”“どこでも”学べる機会を提供します。

〔放送時間〕

○1日19時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組15%以上、教育番組65%以上、報道番組10%以上を編成します。

## FM放送

総合音楽波として、さまざまな音楽・芸能ジャンルの番組をバランス良く編成し、リスナーの期待に応えます。平日夜間に魅力的なパーソナリティーを起用し、現役世代やインターネット世代を中心に、幅広い世代で接触者の増加に取り組みます。災害などの緊急時にはライフライン情報を提供し、地域情報波としてきめ細かな情報を届けます。

### 〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

### 〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養・教育番組あわせて40%以上、報道番組10%以上、娯楽番組25%以上を編成します。